

2 わたなべ し さい もんじん 渡部思齋とその門人たち



▲渡部思齋

今から150年ほど前、野沢町の中ほど（今の朱泥庵があるところ）に研幾堂と名付けられた塾がありました。漢学者であり、漢方医でもあった渡部思齋が、その研幾堂の塾長でした。

渡部思齋は、1832年（天保3年）に野沢原町村で生まれました。

漢学を身につけ、1866年（慶応2年）のころに研幾堂という塾を開きました。

1867年（慶応3年）に、会津藩から医学寮（医学を教える所）の先生になってほしいとたのまれましたが、地元の後輩の指導が大切であると考えて、この話をことわったということです。

思齋は、また、1873年（明治6年）から1876年（明治9年）までの3年間、野沢小学校にもつとめました。

思齋が開いた研幾堂には秀れた少年たちが学問を学ぶために集まり、やがて、この中から世の中のためにつくした人がたくさん育ちました。

石川暎作もその中の1人です。

石川暎作は、1858年（安政5年）市十郎の三男として、野沢本町村に生まれました。6歳のころから渡部思齋の開いた研幾堂で学び、13歳のとき、横浜にある高島英学校へ入学しました。暎作は、その後、慶応義塾（今の慶応大学）にはいるのですが、学費が続かないため退学し、共立学舎というところで、数学を教えながら自分の時間には英語の勉強をして力をつけたようです。